

(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼 Jブルークレジット認証申請書

令和3年11月 2日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

Jブルークレジット制度実施要領の規定に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	■新規申請 <input type="checkbox"/> 登録番号 ( )
プロジェクトの名称	大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港
プロジェクト実施者・場所	<b>【実施者】</b> 山口県漁業協同組合周南統括支店 大島干潟を育てる会 周南市 <b>【場所】</b> 徳山下松港 大島干潟

プロジェクト概要	<p>大島干潟は、徳山下松港で発生した浚渫土砂を活用して平成15～平成29年度に整備され、その後地元周南市が管理する約29haの造成干潟である。</p> <p>大島干潟では、造成後から自然にアマモ場が形成され、現在ではアマモ場、コアモモ場が広がる多様性に富んだ干潟となっている。</p> <p>平成29年11月、大島地区住民と山口県漁業協同組合周南統括支店に所属する漁業者の参加・協働により貴重な地域資源である干潟を活用した地域の活性化を目指して「大島干潟を育てる会」（以下、育てる会）を設立し、大島干潟の保全活動を開始した。</p> <p>育てる会は、アサリ資源の保全や増殖活動、同干潟内のアマモ場・コアモモ場の保全のほか、国・周南市が連携して毎年実施する環境学習活動の支援を行っている。</p> <p>山口県漁業協同組合周南統括支店は、漁業権が設定されている干潟を含む海域での活動について、同年運営委員会に諮り許可するとともに、育てる会が行うアサリ資源の増殖・保全活動に対して放流用のアサリ稚貝の提供、モニタリング時の傭船、活動への助言・協力をしている。</p> <p>周南市は、干潟の管理者として育てる会の活動を支援し、平成30年度に資材等（被覆網、熊手、ピブス、倉庫）の提供や活動会員用の駐車場（借地）の確保及びオブザーバーとして毎月の会の保全活動に参加しているほか、ドローンや船舶によるアマモ場やコアモモ場のモニタリングを実施している。</p> <p>これら3者が連携協働して実施している大島干潟での活動は、今後の継続的な活動により多様な生態系の維持及び拡大につながっていくことが期待されている。</p> <p>【使用船舶等】  タコ壺船（0.8トン45ps）1隻（運転時間1.25h、航行距離約2.0km）  船外機船（0.9トン15PS）1隻（運転時間1h、航行距離約2.8km）</p>
プロジェクト実施期間	平成29年度～現在
クレジットの認証申請対象期間	令和2年10月6日～令和3年10月5日
方法論	<p>【対象とする生態系】  アマモ場、コアモモ場  ※別添1のとおり</p> <p>①活動量算定方法※</p> <p>②吸収係数</p> <p>1. アマモ  桑江ら（2019）の表-4に記載されているアマモ場の吸収係数（4.9 t-CO<sub>2</sub>/ha/年）を用いる。</p> <p>2. コアマモ  桑江ら（2019）の表-4に記載されているアマモ場の吸収係数（4.9 t-CO<sub>2</sub>/ha/年）を準用する。</p>

(第1号様式)

	③吸収量算定方法	<p>【参考文献】 桑江ら (2019.6) : 浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計. 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 75: 10-20</p> <p>【算定した式】 活動量 × 吸収係数</p> <p>【算定結果 (吸収量)】 アマモ場 <math>11.48\text{ha} \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha}/\text{年} = 56.2\text{t-CO}_2</math> コアマモ場 <math>3.35\text{ha} \times 4.9 \text{ t-CO}_2/\text{ha}/\text{年} = 16.4\text{t-CO}_2</math></p>
ベースラインの設定方法・妥当性とその量	大島干潟造成前をベースラインとして設定する。 干潟造成前は、地元漁業者により現地においてアマモ、コアマモの生育繁茂は確認されていないため、ベースラインをゼロとする。	
クレジット認証対象の吸収量	アマモ $56.2\text{t} - 0\text{t} = 56.2\text{t-CO}_2$ コアマモ $16.4\text{t} - 0\text{t} = 16.4\text{t-CO}_2$	